

文部





こ秋ハ冬後園よりわづらへる傍

ゆきもぬぬも松浦筑碁の誓ひも

いづれにゆくもなほ申さぬなをを

なほいづれも男山に雲より夢も思ひ

びあやと邦より上りてふも又

五出佛宮母子参りてや思ひ

是に  
乃月衣衣をまひ思ふ先必も



言くゆえくあまの女乃夕の影  
まはるふのこゝ秋首へ表り殿  
むくまの光の燈をかゝる 雲成り  
は社より木に凡づく丸の森も  
うらもてて海原やわはを原に  
月やあゝぬもよこちなる五條  
おろわ衣ありや衣ありも

志く怒りて涙とひて巻く  
きかぬぬ — きかぬお衣

屋素よりわ女の歌をひびくるあ乃  
ゆえんおねおねわと思ひい  
山乃端の心も — ちりり月を  
字ハ素衣ゆくをきやうなん  
巫山にやうらまらふ陽巻の



ももしきやに江の浦ハ  
志んくも世の竹を染ふこ  
りやこゝと又と所も  
ぬをえらば古を軒端の処小原  
志のゆきくおなきやとを  
びつたき一きぬ、尾子あとに  
だごなまり一表のむじをらわ

をを世に隔とるも  
ゆーも執心の毛をも糸をも  
松とる一 渡乃雨ハ後乃在の  
さるわをなまきととも猶ほ  
厭くもかすし心子浮雲をぐ  
揚ぬ嵐の風乃まふまぬの月も  
鳴よとまりむあ一まをよ阿あく



二六二下二 夕陽

柳のくく 夕陽はなぬ女燈

夕陽

舟中遊ぶる衆も 何事もなく

夕陽

いづれ 愛を成りけりて中いづ

夕陽

是れいづれなるも 一の院ゆくゆく

夕陽

不思議やなるこゝろ 一巻や

なまよひ 乃ちあまのと乃ちた

あわらめ のちと 落葉や 母も

うねをまぬふも 大や 母も

夕陽

なまよひ 乃ちあまのと乃ちた

娘のわむし 乃ちあまのと乃ちた

乃ちあまのと乃ちた 乃ちあまのと乃ちた

なまよひ 乃ちあまのと乃ちた

なまよひ 乃ちあまのと乃ちた

なまよひ 乃ちあまのと乃ちた



心なるをばやよ幾へくくく光君  
上カレ

まの夕影に露のよふづくば  
下

思を見新のいぬもわづら  
下

およのふくちづれもいなる  
下

こきむさは河原院に清涼よ  
早カレ

嫉しやうえそ昔いかになまお  
下

所をたぬるしうおおも是後の  
下

かに巻ものぞう煮たかうはるる儀

好うわたせぢうまくとみゆ影の露

消竹のい世後をいづるを新へ  
上カレ

は恥を及ば義勇もいふり  
下

そもくひらるるひり乃物後  
下

まの葉ゆうをいをもい  
下

理あをまよいなるをいぬも  
下



心驚枕心を以てめぐる家にも

ぬしは後をばわらぬやうに

つるは花の中もはむら返

是は殊よしく終てありけな

情のるも海に似る葉は新ひ

六條の清き色はよりのひた

よいかよよと中篇よた

やすうひの玉鉾乃便よ

清くはまなわ物のあやめも

見ぬおとくは遠ざり色は地

軒表の雨にぬるしとる葉の

名もえがなひんくす夕影

おわすこころあは人の心

さしきく霧のふききなま

心驚枕心を以てめぐる家にも

ぬしは後をばわらぬやうに

つるは花の中もはむら返

是は殊よしく終てありけな

情のるも海に似る葉は新ひ

六條の清き色はよりのひた

よいかよよと中篇よた

やすうひの玉鉾乃便よ

清くはまなわ物のあやめも

見ぬおとくは遠ざり色は地

軒表の雨にぬるしとる葉の

名もえがなひんくす夕影

おわすこころあは人の心

さしきく霧のふききなま



二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
云、此、葉、の、末、枝、あ、り、秋、葉、落、り、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
さ、や、衣、履、お、ろ、こ、し、に、た、り、ひ、よ、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
秋、の、葉、と、い、ふ、所、さ、う、さ、う、一、條、目、の、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
さ、乃、ま、ゆ、ひ、春、言、乃、兼、も、以、世、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
菊、も、り、わ、る、厭、う、わ、る、舞、舞、乃、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
あ、う、げ、さ、う、あ、さ、も、舞、く、秋、の、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
や、い、く、音、果、う、宵、乃、万、寸、と、あ、故、

上  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
心、の、松、お、ひ、く、ま、も、ホ、ク、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
い、ま、ふ、ま、さ、く、舞、の、者、由、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
思、ふ、心、を、し、く、お、う、わ、を、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
廿、ハ、玉、の、や、三、儀、字、け、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
な、り、い、つ、り、小、さ、き、も、り、お、り、  
甲  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
づ、た、う、さ、い、冬、い、た、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
水、乃、淡、と、の、み、あ、  
二二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、  
乃、歌、



花の二つひきめや花遊めに  
みよをこころもあはれ歌女も  
しきくはやくふ安んわく  
<sup>上の</sup>い彷彿うはももはくく月  
見ろくくすす何しはく清草  
後補乃をくくはくくはく  
後字サレ  
海なるくくまはくく女  
女

五陵の鼎ありき母さくも雲疎  
もあきき衣びもまがひ  
有様を歌す今の美人の志  
吊ひ新人もまかきあぬ  
よひ春万歳山乃端物一月歌の  
浮おんくろり夕歌春未葉子  
露乃消やし露なるとみけく



を後をのけた歌りし竹人伝  
見たまへ爰もをの流りし氣味  
秋のちちと成る池の水をに  
理もまがわらふ松の信くも  
又時移る乃かろあるあり見  
涙心折る城も物しこそ  
思ひ折りの心乃水ハ濁江よ



ひつれりし歌男覚なまはとも  
まはるるをいふさをあへあそ  
世も深きざらふわ能く歌く  
法師乃の男を受く法師乃  
とひ吊をまきし歌く娘し如覚  
ぬ歌のえん衣下遊ひく家  
法苑乃集めたる歌集男子の











